

令和元年度決算

亀山市

# 令和元年度つうしんぼ

わかりやすい決算書

# 令和元年度 決算

令和元年度の一般会計、特別会計、企業会計の決算が、市議会で認定されました。

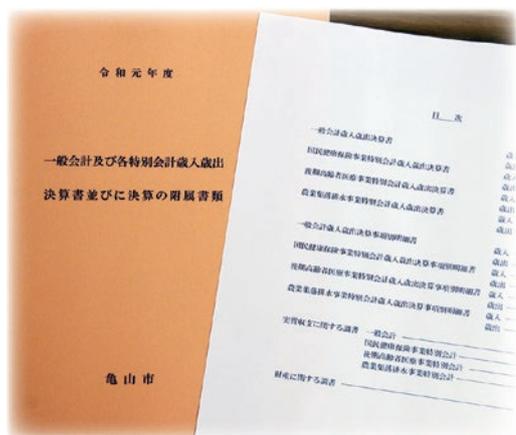
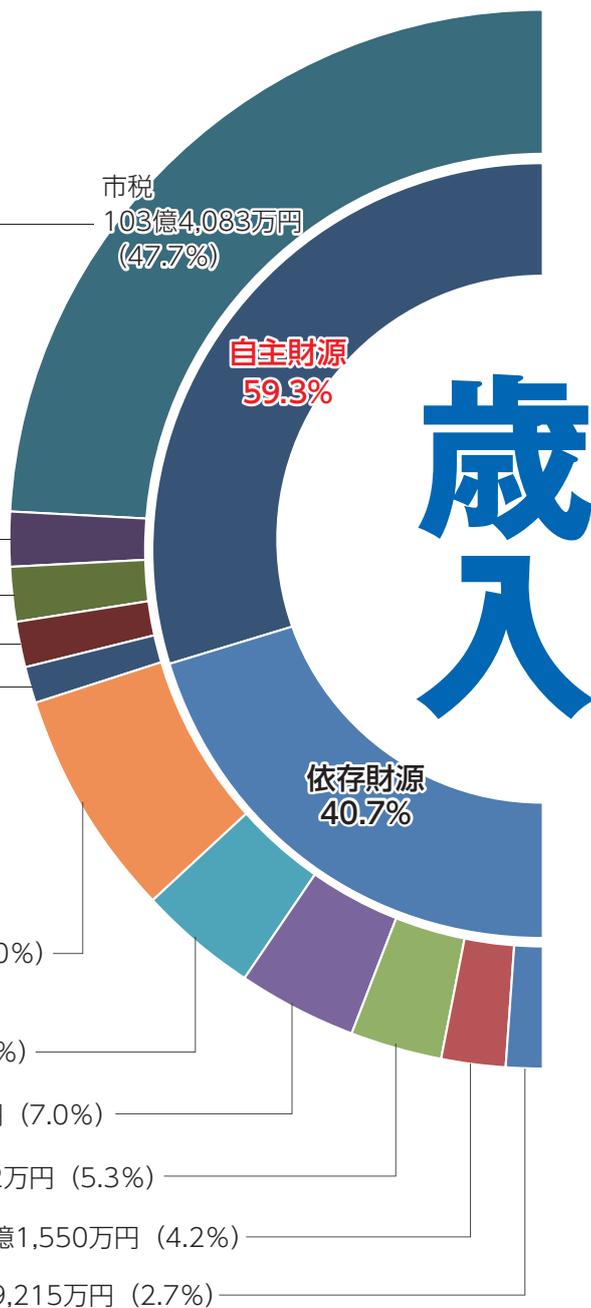
第2次総合計画前期基本計画の3年目として、新たに策定した第2次実施計画の着実な推進と行財政改革による財政健全性の確保の両立を図りつつ、消費税増税や幼児教育・保育の無償化など国の制度改正に対し、適切な対応に努めました。

「令和元年度つうしんぼ」では、皆さんに納めていただいた税金や国・県支出金がいくらで、どのように使われたか、また市の財政状況はどうなっているのか、詳しくお伝えします。

## 歳入 216億9,671万円

### 市税の内訳

種類	決算額
市民税	33億9,139万円
固定資産税	57億1,415万円
軽自動車税	1億6,006万円
市たばこ税	3億2,986万円
特別土地保有税	30万円
入湯税	250万円
都市計画税	7億4,257万円
合計	103億4,083万円

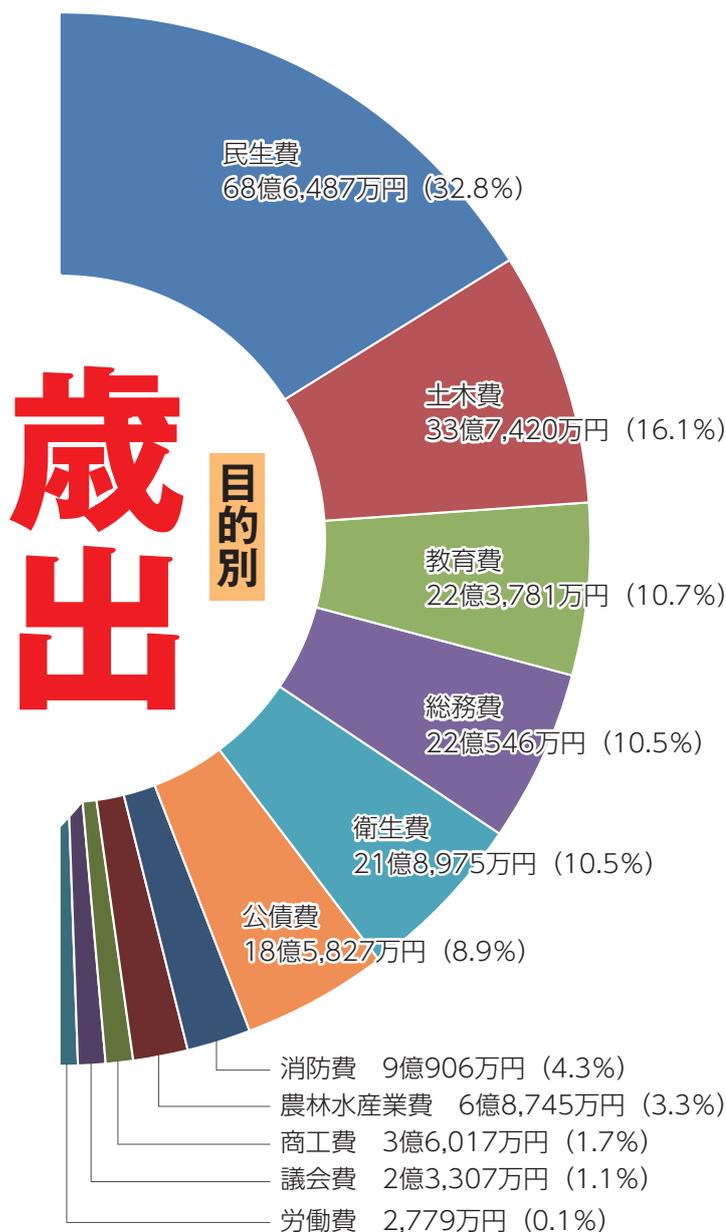


歳入は前年度より約1億6千万円増加した決算となりました。地方財政の自主性を確保する自主財源は、市税収入が約5億6千万円の減収となったことが大きな要因となり、前年度より約5億7千万円減少し、構成比は歳入全体の59.3パーセントとなりました。依存財源については、地方特例交付金や国庫支出金が増収となったことにより、約7億3千万円増加し、構成比は歳入全体の40.7パーセントとなりました。

# 一般会計

一般会計の歳入は216億9,671万円、歳出は209億4,790万円、歳入歳出差引額は7億4,881万円となり、翌年度に繰り越す財源を控除した実質収支額は6億5,375万円の黒字となりました。

## 歳出 209億4,790万円



### ●市民1人当たりの歳出 (一般会計)

市民1人当たりに換算すると**422,737円**

**民生費 138,536円**

各種福祉事業に使った費用



**土木費 68,093円**

道路やまちづくりなどに使った費用



**教育費 45,160円**

学校教育や社会教育などに使った費用



**総務費 44,507円**

地域振興や一般事務などに使った費用



**衛生費 44,190円**

市民の健康管理やごみ処理に使った費用



**公債費 37,501円**

借入金返済や利子支払いに使った費用



**消防費 18,345円**

消防施設や消防団運営に使った費用



**農林水産業費 13,873円**

農業や林業の振興に使った費用



**商工費 7,268円**

観光や商工業の振興に使った費用



**議会費 4,703円**

市議会の運営に使った費用



**労働費 561円**

勤労者の支援などに使った費用



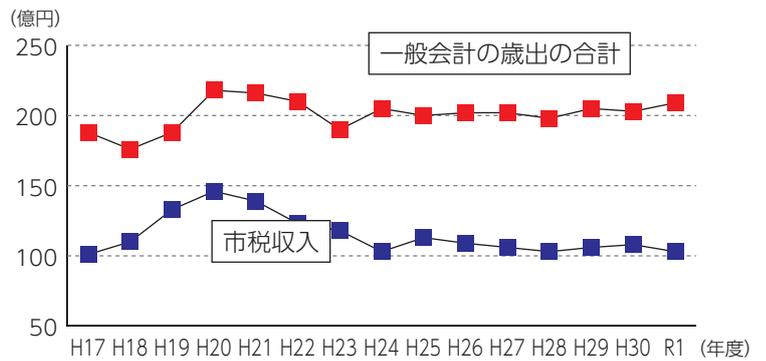
※市民1人当たりの歳出額は、令和2年4月1日現在の人口(49,553人)で計算しています。

歳出は前年度より約6億5千万円増加した決算となりました。目的別で見ると、土木費が亀山駅周辺整備の事業費の増などにより約10億2千万円の増、民生費が障がい者(児)自立支援の事業費の増などにより約2億5千万円の増、衛生費が溶融処理施設管理費の増などにより約1億2千万円の増、総務費が職員退職手当の増などにより約1億円の増、教育費が川崎小学校改築事業の完了などにより約4億7千万円の減、公債費が元金償還金の減などにより約3億6千万円の減となったことが主な要因です。

# 決算経過

令和元年度決算については、歳入において、主に市税収入の減収が要因となり一般財源は減少しましたが、歳出において、合併特例債の段階的な償還などにより公債費が減少したことから、おおむね財政の健全化を確保することができました。

●一般会計の歳出の合計と市税収入の推移



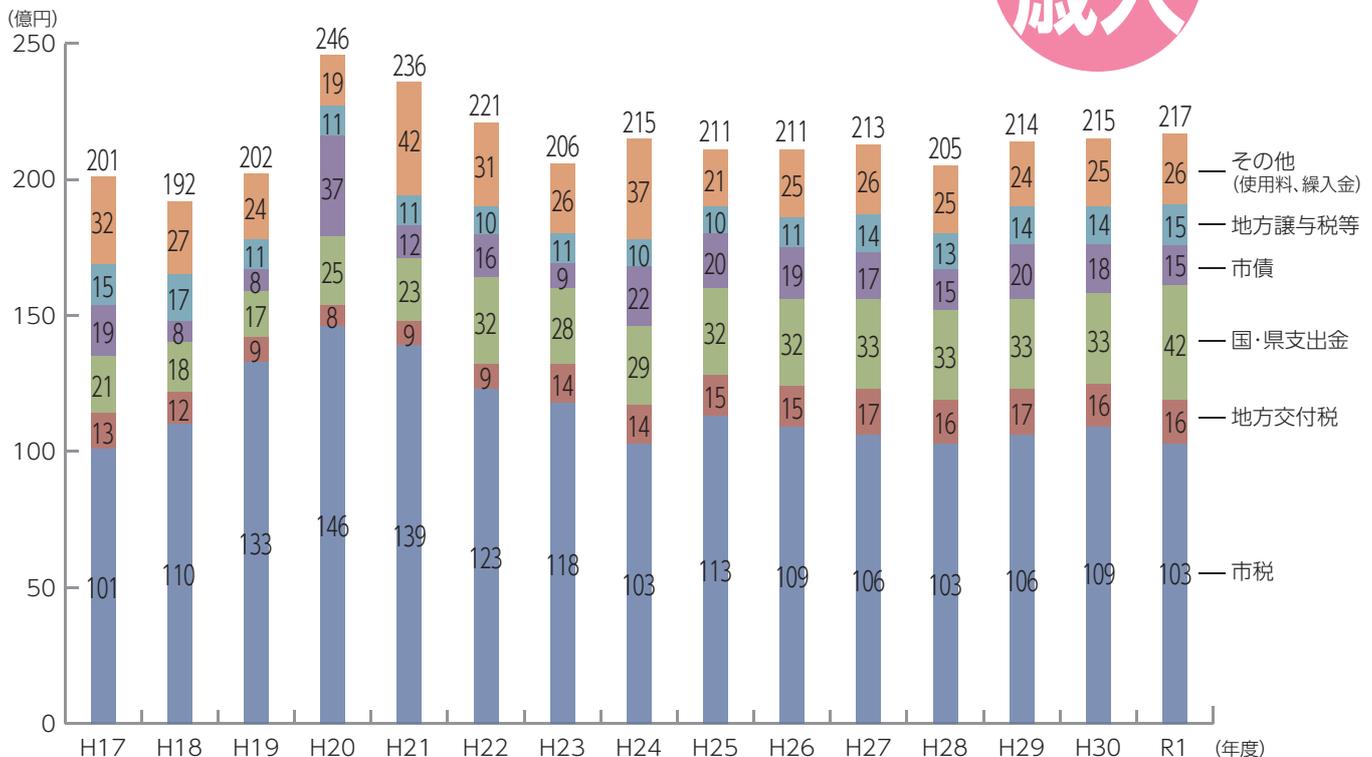
## 歳入の経過

人口はほぼ5万人で推移していますが、市税収入は平成20年度の146億円をピークに平成24年度まで減り続け、平成25年度決算では113億円と一時増収となったものの、以降は減収傾向にあり、令和元年度決算では103億円と前年度より約6億円の減収となりました。

市税が減収となった主な要因は、法人市民税では企業業績が減益となった事業所があったこと、固定資産税では企業における償却資産の減で、今後も厳しい状況が続くことが予想されます。

また、国・県支出金は、亀山駅周辺整備事業により過去最高額の42億円となりましたが、地方譲与税等、地方交付税、その他の収入については、前年度と比較して大きな増減はありませんでした。

市債(借金)は、臨時財政対策債や学校教育施設整備事業などの財源を借り入れましたが、前年度より3億円減の15億円となりました。

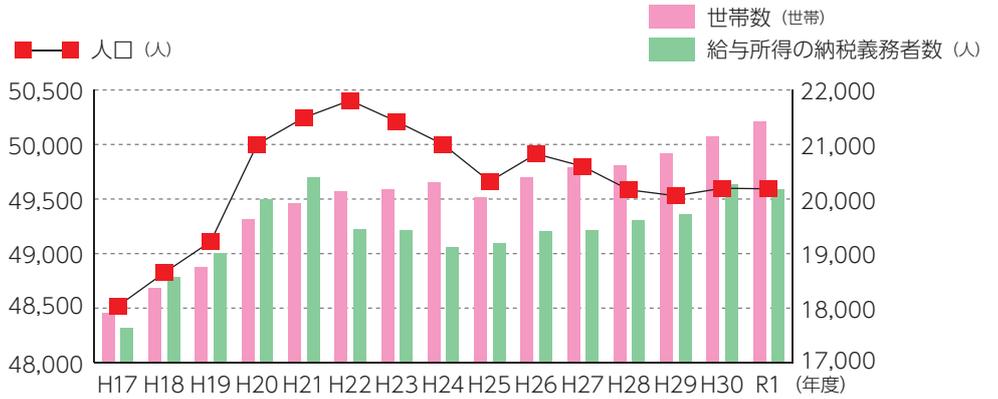


市税…市民税、固定資産税、たばこ税など  
 地方交付税…国税のうち市に配分されたもの  
 国・県支出金…国や県から交付された補助金など  
 市債…国や銀行からの借金

地方譲与税…国税・県税の一部が市に譲与されたもの  
 使用料…市営施設の使用料など  
 繰入金…市の基金から引き出した資金など

●人口・世帯数・  
納税義務者数の推移

※人口と世帯数は4月1日現在  
※給与所得の納税義務者数は  
7月1日現在



歳出の経過

扶助費は、前年度より2億円増え、過去最高の38億円となりました。

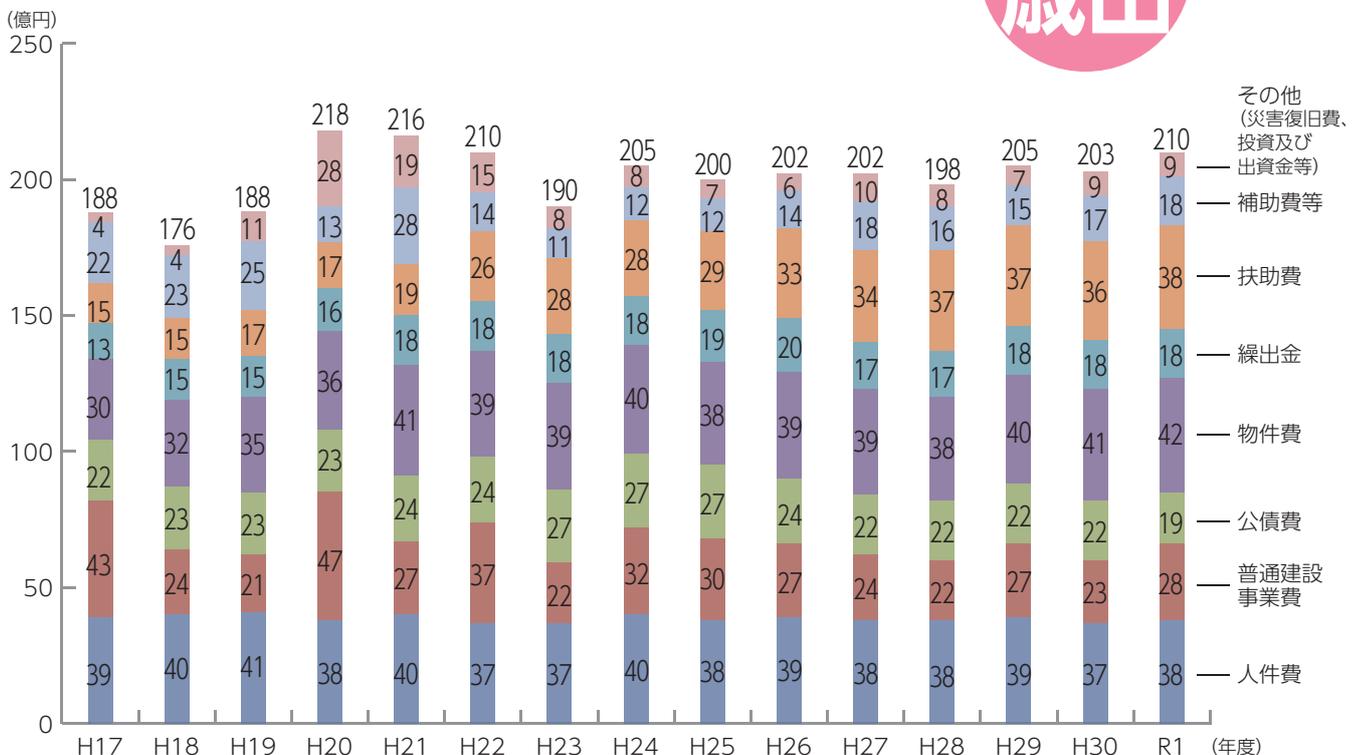
普通建設事業費は、前年度より5億円増の28億円となりました。増加要因となった主な事業は、亀山駅周辺整備事業、西野公園改修事業、小学校および幼稚園の空調機整備事業などです。

補助費等は、過年度国庫支出金返還金や公共下水道事業繰出金の増加が要因となり、前年度と比較して1億円増の18億円、繰出金は前年度並みの18億円となりました。繰出金や補助費等の増減については、今後も社会福祉・児童福祉事業等によるものが大きな要因になると考えられます。

公債費(借金の返済)は、合併後初めて20億円を下回りました。

物件費は、前年度より1億円増の42億円となりました。物件費は歳出全体の約2割を占めていることから、引き続き、ごみ溶融処理施設や教育施設など各種施設の運営に係る経費削減を徹底する必要があります。

人件費は、前年度より1億円増の38億円となりました。



人件費…市職員の給料や議員報酬など  
 普通建設事業費…道路・学校・庁舎など、公共施設の新築・改修に使った費用  
 公債費…市債の元金・利息や一時借入金の利子  
 物件費…光熱水費、消耗品費、業務委託料など  
 繰出金…国民健康保険事業などの他の会計へ繰り出した費用

扶助費…生活保護、障がい者支援、医療費助成など福祉に使った費用  
 補助費等…報償費、負担金、補助金など  
 災害復旧事業費…大雨、暴風などの災害により被災した設備の復旧などに使った費用  
 投資及び出資金…財産を有利に運用するための投資や他団体への出資金など

# 令和元年度に実施した主な事業



## 亀山駅周辺整備事業 14億6,164万円

都市整備課

亀山駅周辺の整備を進めるため、市街地再開発組合が行う市街地再開発事業等を支援するとともに、周辺道路等の整備を行いました。



## 西野公園改修事業 2億2,548万円

土木課・文化スポーツ課

来年度開催予定の第76回国民体育大会(三重とこわか国体)に向け、西野公園のトイレ、野球場の改修等を行いました。



## 都市計画道路整備事業 (野村布気線)

### 1億7,873万円

土木課

市街と関地区を結ぶ幹線道路となる野村布気線を整備し、生活の利便性や防災機能を向上させるほか、産業活動の促進を図りました。



## 空調機整備事業 (小学校・幼稚園) 2億1,203万円

教育総務課・子ども未来課

園児・児童が快適な環境の中で学習意欲を高めることができるよう、幼稚園の保育室と遊戯室および小学校の普通教室と音楽室に空調機を設置しました。



## 放課後児童クラブ事業

### 1億8,209万円

 子ども未来課  

### 放課後子ども教室推進事業 1,453万円

 生涯学習課

児童の安全な居場所の確保のため、放課後児童クラブの運営支援や亀山南小学校の敷地内に放課後児童クラブの整備を行うほか、放課後子ども教室を実施しました。



## 福祉医療費助成事業(子ども)

### 1億8,909万円

市民課

義務教育終了までの児童・生徒への医療費の助成のほか、令和元年9月からは、未就学児の医療費の窓口無料化を、市内医療機関に加え県内医療機関での実施に拡大しました。



## 子育て世代包括支援事業 6,463万円

長寿健康課

妊婦・産婦健康診査や新生児聴覚スクリーニング検査費用の助成を行うほか、子育て世代包括支援センターで妊娠・出産・子育てに関する相談に応じるなどの支援を行いました。



## 森林環境創造事業 1,700万円

産業振興課

森林所有者から管理委託された環境林の間伐を行い、針葉樹・広葉樹が育成する多様な森林づくりを行いました。



## 地域まちづくり協議会支援事業 2,604万円

まちづくり協働課

地域まちづくり協議会を支援していくため、地域まちづくり交付金等を交付するほか、地域担い手育成研修やアドバイザー派遣等を行いました。

令和元年度に実施したその他の事業についても、亀山市ホームページで公開しています。詳しくは、検索してご覧ください。

行政評価 第2次総合計画 亀山市

検索

## 快適さを支える生活基盤の向上



■ 都市づくり戦略推進事業	482万円
■ 住宅取得支援事業	375万円
■ 民間活用市営住宅事業	4,254万円
■ 地震対策・木造住宅補強事業	3,064万円
■ 橋梁耐震化補強事業	5,372万円
■ 地域生活交通再編事業	1億1,182万円
■ ごみ溶融処理施設大規模整備事業	1億560万円
■ 多面的機能発揮促進事業	1,415万円
■ 森林経営管理事業	1,256万円
■ 伝統的建造物群保存修理修景事業	3,127万円

## 健康で生きがいを持てる暮らしの充実



■ 地域福祉力強化推進事業	836万円
■ 生活困窮者自立支援事業	1,450万円
■ 健康増進事業	1,063万円
■ がん検診推進事業	9,017万円
■ 予防接種費用助成事業	663万円
■ 三重大学亀山地域医療学講座支援事業	3,120万円
■ 介護保険地域支援事業(総合事業、任意事業)	4,462万円
■ 地域包括支援事業(社会保障充実分)	2,175万円
■ 福祉医療費助成事業(心身障がい者)	1億7,992万円

## 交通拠点性を生かした都市活力の向上



■ 産業振興奨励事業	4,555万円
■ 創業等支援事業	432万円
■ 林業生産活動支援事業	1,350万円
■ 亀山7座トレイル整備・活用推進事業	335万円
■ リニア中央新幹線整備促進事業	161万円

## 子育てと子どもの成長を支える環境の充実



■ 中学校給食実施事業	3,813万円
■ 井田川小学校校舎増築・給食室改修事業	2,103万円
■ 英語教育推進事業	2,446万円
■ 情報教育推進事業(小学校、中学校)	3,861万円
■ 学力向上推進事業	366万円
■ 個の学び支援事業(幼稚園、小学校、中学校)	8,101万円
■ 少人数教育推進事業	2,337万円

## 市民力・地域力の活性化



■ 市民活動応援事業	728万円
■ 市制施行15周年記念事業	985万円
■ 移住交流促進事業	225万円

## 行政経営



■ 証明書等コンビニ交付事業	2,949万円
----------------	---------

## 国民健康保険事業

令和元年度末の加入世帯数は5,733世帯、被保険者数は8,880人です。医療費(自己負担分を除く)を保険給付費として国民健康保険会計から支払っています。

平成30年度からは、三重県が財政運営の責任主体となり、県内市町と連携して安定的な財政運営と効率的な事業実施に努めています。

### 歳入 45億5,036万円



### 歳出 45億2,670万円

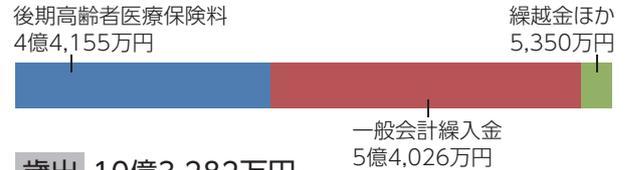


## 後期高齢者医療事業

75歳以上(一定の障がいがある場合は65歳以上)の高齢者を対象とした医療制度で、令和元年度末の被保険者数は6,645人です。

保険者である三重県後期高齢者医療広域連合へ医療費の給付等の事業に係る経費の負担を行うとともに、市の事業として各種届出の受付、保険料の収納事務等を実施しています。

### 歳入 10億3,531万円



### 歳出 10億3,282万円



# 特別会計

特定の事業には、特定の歳入をもってその歳出に充て、一般の歳入歳出と区別して経理する必要があり、一般会計とは別に特別会計を設けています。

亀山市には現在、国民健康保険事業、後期高齢者医療事業、農業集落排水事業の3つの特別会計があり、特別会計全体の決算額は、歳入が60億7,989万円、歳出が60億3,774万円、歳入から歳出を差し引いた額は、4,215万円となりました。



## 一般会計からの繰入金

会計名	繰入金額
国民健康保険事業	3億3,380万円
後期高齢者医療事業	5億4,026万円
農業集落排水事業	3億3,800万円

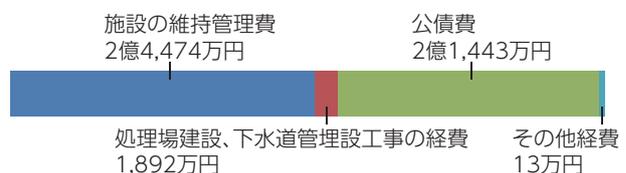
## 農業集落排水事業

公共用水域の水質保全や農村生活環境の改善を図るため、農業振興地域内において、14地区が供用しており、2,812戸が加入しています。

### 歳入 4億9,422万円



### 歳出 4億7,822万円



### 水道事業

川崎加圧ポンプ室建設工事、みどり町地内などの配水管改良工事、関町福德地内の基幹管路耐震化工事および太岡寺配水池の応急給水設備工事を行い、安全でおいしい水の供給と健全な事業運営により、人口49,503人に1日平均17,399 m<sup>3</sup>を給水しました。

収益的収支(水道料金などでの収支)	
水道事業収益	14億4,721万円
水道事業費用	11億6,397万円
差引額	2億8,324万円
資本的収支(施設建設などでの収支)	
資本的収入	4,544万円
資本的支出	5億9,081万円
差引額	△ 5億4,537万円

### 工業用水道事業

良質で安定した水の供給維持のため、第5水源地工業用水送水ポンプ更新工事を行い、2企業に1日平均2,260m<sup>3</sup>を供給しました。

また、新規企業の進出に伴う配水管布設工事を行いました。

収益的収支(工業用水道料金などでの収支)	
工業用水道事業収益	8,562万円
工業用水道事業費用	5,626万円
差引額	2,936万円
資本的収支(施設建設などでの収支)	
資本的収入	7,075万円
資本的支出	9,745万円
差引額	△ 2,670万円

# 企業会計

自治体が経営する事業のうち、地方公営企業法の適用を受ける事業で、原則として独立採算制で運営されています。

亀山市には現在、水道事業、工業用水道事業、公共下水道事業、病院事業の4つの企業会計があります。



### 一般会計からの繰入金

会計名	繰入金額
公共下水道事業	4億8,400万円
病院事業	2億7,246万円

### 公共下水道事業

建設改良工事を本町南部、井田川・能褒野、布気処理分区にて行い、令和元年度末には、供用面積925.5ha、処理区域内戸数10,425戸、普及率58.8%になりました。

また、老朽化した管渠の長寿命化対策工事を井田川・能褒野処理分区にて行いました。

収益的収支(公共下水道使用料金などでの収支)	
公共下水道事業収益	9億9,559万円
公共下水道事業費用	9億4,120万円
差引額	5,439万円
資本的収支(施設建設などでの収支)	
資本的収入	10億2,149万円
資本的支出	12億8,528万円
差引額	△ 2億6,379万円

### 病院事業

病床数は92床(うち地域包括ケア病床19床)、入院は年間延べ23,700人、外来は年間延べ36,132人が受診しました。

また、訪問看護事業等について、在宅医療におけるさまざまなニーズに応えられるよう、更なる機能強化に努めました。一方、給湯配管等の改修を行い、施設の長寿命化を図るほか、眼科手術用顕微鏡、デジタルX線画像制御装置等の医療機器を更新し、設備の充実に努めました。

収益的収支(診療費などでの収支)	
病院事業収益	16億2,316万円
病院事業費用	17億1,187万円
差引額	△ 8,871万円
資本的収支(施設建設などでの収支)	
資本的収入	1億2,087万円
資本的支出	2億3,263万円
差引額	△ 1億1,176万円

# 財政指標

## 健全な財政運営を確保！

自治体の財政状況を分析するためのさまざまな指数を総称して、「財政指標」と呼んでいます。

財政指標は、経常収支比率や実質公債費比率が県内の市の中でも上位で、すべての会計を合算し算出する連結実質赤字比率や将来負担比率などの健全化判断比率についても、国が定める基準に対して、大幅に下回る比率となっています。

## 財政力指数

# 0.911

地方公共団体の財政力を示すもので、一般財源必要額に対し、市税等の一般財源収入額がどの程度確保されているかを表しています。「1」に近いほど財源に余裕があり、「1」を超えると普通交付税の不交付団体になり、標準的な水準以上の行政を行うことができます。

県内市  
2位

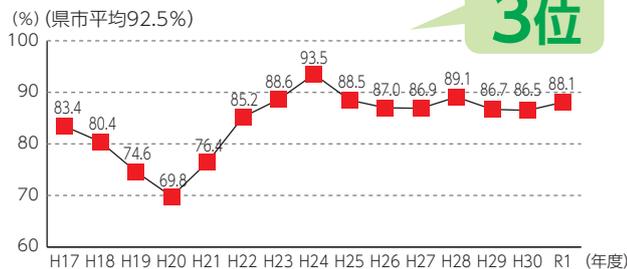


## 経常収支比率

# 88.1%

「経常的に収入された一般財源」の「経常的経費」への充当割合を表したもので、財政構造の弾力性を示す指標であり、比率が低いほど弾力性が大きいことを示しています。一般的には、75%程度が妥当と考えられ、80%を超えると弾力性を失いつつあると言われています。

県内市  
3位

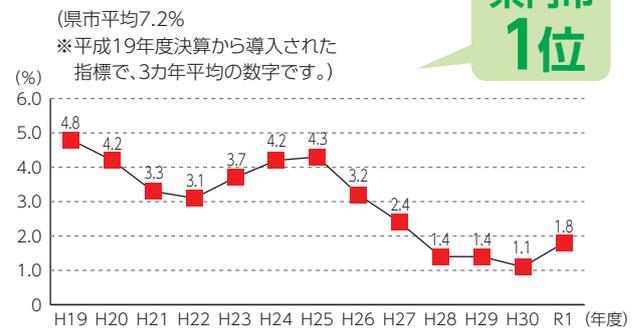


## 実質公債費比率

# 1.8%

地方公共団体の借入金（地方債）返済額の大きさを、その地方公共団体の財政規模に対する割合として表したもので、公債費による財政負担の度合いを判断する指標です。

県内市  
1位



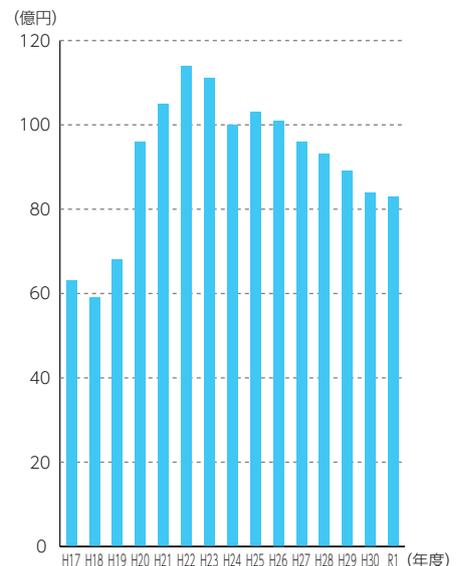
## 基金残高

# 約83億円

法律や条令に基づいて設置される基金は、特定の目的のために活用することができます。

亀山市の令和元年度末での基金の残高は、約83億円となりました。年度間の財源の不均衡を調整するための基金である財政調整基金については、物件費等の増加により繰り入れを行ったため、令和元年度で約1億7千万円減少しました。

財政調整基金	28億928万円
減債基金	3億2,840万円
国民健康保険事業運営基金	1,065万円
リニア中央新幹線亀山駅整備基金	17億5,212万円
下水道事業基金	0円
農業集落排水事業債償還基金	1億184万円
地域福祉基金	3,293万円
ふるさと・水と土保全基金	1,592万円
ボランティア基金	865万円
伝統的建造物群保存基金	0円
庁舎建設基金	12億円
市民まちづくり基金	8億8,707万円
関宿にぎわいづくり基金	3億6,922万円
土地開発基金	7億9,812万円
みえ森と緑の県民税市町交付金基金	0円
文化振興基金	1,056万円
森林環境整備基金	89万円
計	83億2,565万円



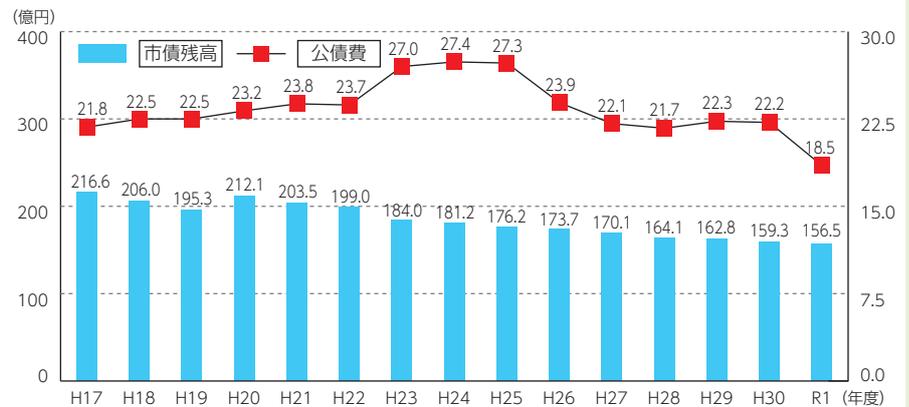
# 財政運営

## 市債残高11年連続減少!

### 市債残高(一般会計)

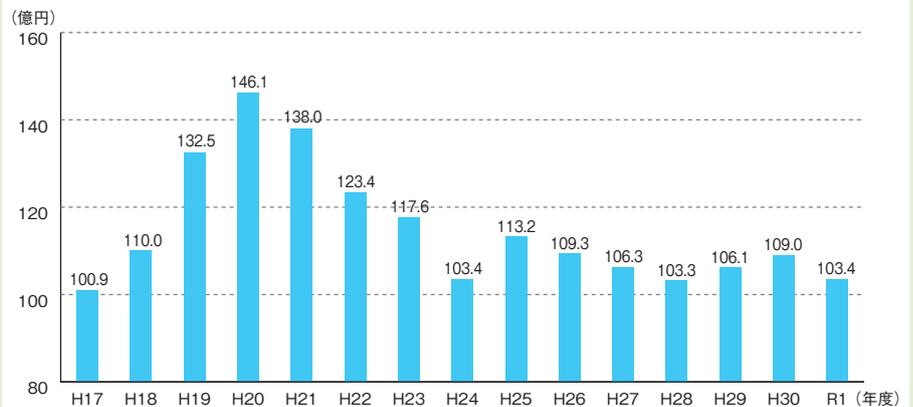
市債は、公共施設の建設など、一時的にたくさんの費用が必要な場合の借金で、将来、返済しなければなりません。

令和元年度には、新たに約15億円を借り入れましたが、将来の財政負担を考慮し、交付税算入があるものなど有利な市債の借り入れにとどめた結果、市債残高は11年連続で減少しています。



### 市税収入

市の歳入の根幹をなす市税収入は、平成20年度をピークに減少傾向にあります。市税全体のうち、市民税と固定資産税はその大部分を占めており、個人所得と企業業績、また新築住宅の建設などに支えられ、市税収入は100億円をキープしています。



### 財政調整基金

市税などの歳入は年度によって増減があるため、収支が不足する場合があります。

このような年度間の財源不足に備えるため、「財政調整基金」を設置しています。基金残高は、令和元年度末時点で約28億円で、亀山市行財政改革大綱の目標基準「基金残高20億円以上」を上回っています。



### 今後の財政運営は

今後も市税や地方交付税の減収と扶助費や投資的経費等の歳出の増加が見込まれるほか、新型コロナウイルス感染症の影響も危惧される中で、第3次亀山市行財政改革大綱の取組項目を着実に実践するとともに創意工夫に努め、持続可能な行財政運営の確立を目指していきます。

**引き続き健全な財政運営に努めます。**

年収約400万円の  
家計に例えると…

5万人の台所事情

# 亀山家(市)の家計簿

令和元年度の一般会計決算を、約400万円の家計に例えてみました。  
市にはさまざまな種類の収入と支出があり、一般の家庭とは少し違った内容になっていますが、亀山家(市)の年間の家計簿をつくってみると…

収入		平成30年度からの 増減	支出		平成30年度からの 増減
現金収入合計	374万円	(+9万円)	生活費用合計	296万円	(+3万円)
給料(基本給)	212万円	(-13万円)	食費	65万円	(+2万円)
▶ 市税、分担金および負担金			▶ 人件費		
給料(諸手当)	63万円	(+2万円)	医療費	75万円	(+3万円)
▶ 地方交付税、譲与税・交付金等			▶ 扶助費		
パート収入	15万円	(+2万円)	光熱水費などの雑費	99万円	(+6万円)
▶ 諸収入、使用料・手数料			▶ 物件費、補助費等		
親からの援助	84万円	(+18万円)	車などの修理代	12万円	(+1万円)
▶ 国庫支出金、県支出金			▶ 維持修繕費		
ローン(借入金)	30万円	(-6万円)	教育費	45万円	(-9万円)
▶ 市債			子どもへの仕送り	36万円	(-1万円)
貯金の取り崩し	16万円	(-3万円)	▶ 繰出金		
▶ 繰入金			ローンの返済	37万円	(-7万円)
繰越金	14万円	(+3万円)	▶ 公債費		
▶ 繰越金			家や庭の建築・改修	46万円	(+20万円)
			▶ 普通建設事業費、災害復旧費		
			貸付など	2万円	(-2万円)
			▶ 貸付金、投資および出資金		
			貯金など	2万円	(0円)
			▶ 積立金、予備費		
<b>収入合計</b>	<b>434万円</b>	<b>(+3万円)</b>	<b>支出合計</b>	<b>419万円</b>	<b>(+13万円)</b>
			余り	15万円	(+3万円)
<b>貯金残高</b>	<b>148万円</b>	<b>(-8万円)</b>	<b>ローン残高</b>	<b>313万円</b>	<b>(-5万円)</b>

## 令和元年度の家計は…

生活費の節約に努めましたが、給料(基本給)が減ったため、親から多くの援助をもらって家計をやりくりしました。なお、ローンの借り入れや貯金の取り崩しを控え、将来の家計への負担を減らす努力もしました。

しかし、家計に占める割合が大きい医療費や光熱水費などの雑費は年々増加傾向にあるほか、家や庭の老朽化に伴う改築や改修にかかる支出が大きく増えました。また、ローンの残高は年々減っているものの、今後も返済が必要になります。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、今後も厳しい状況が続くなか、引き続き節電や節水に努めるほか、その他の出費についても無駄がないか見直したり、改修時期や規模を見直したりして家計のやりくりに努めます。また、ローンの借り入れや貯金の取り崩しを最小限にとどめるなど、家計の安定を図っていきます。



令和元年度つうしんば  
わかりやすい決算書

発行：亀山市 編集：総合政策部政策課広報秘書グループ  
〒519-0195 三重県亀山市本丸町577番地 TEL 0595-82-1111(代) FAX 0595-82-9955 ホームページ <https://www.city.kameyama.mie.jp>  
広報かめやまは、古紙パルプ配合率80%、白色度80%の再生紙および植物油インキを使用しています。